

マツダの歴史・・・数で勝てないなら、ちがうことをやる

横＝年代／縦＝4つの流れ。危機のレーンが何度も動いているのに、技術のレーンが途切れていない。そこがこの会社の見どころです。

● 会社のできごと ● 危機と転換 ● 世界へ ● 技術

	～1920s 創業期	1930s 戦前	1940s 戦中戦後	1950s 再建	1960s 大衆化	1970s 規制	1980s 世界へ	1990s 転機	2000s 再編	2010s 立て直し	2020s 電動化
● 会社のできごと 組織・体制	1920 東洋コルク工業 設立 広島で創業 1927 東洋工業に改称		1945 被災後すぐ生産再開 三輪トラックから		1960 四輪に参入 R360クーペ	1979 フォードと資本提携		1996 フォードの傘下に 出資比率が上がる		2015 フォードとの資本関係 を解消 2017 トヨタと資本業務提携	2021 米国工場が稼働 トヨタと共同 ⌚
● 危機と転換 何度も訪れた正念場			1945 原爆で広島が被災 本社は県庁の仮庁舎に			1973 オイルショック ロータリーの燃費が弱点に。 販売が急減		1990s 5チャンネル販売の失敗 経営が大きく傾く	2008 金融危機 フォードが出資を縮小		2020s 規模の小ささ 電動化投資の重さが課題 ⌚
● 世界へ 輸出・レース・提携						1970s 米国への輸出が本格化	1980s 北米で販売を伸ばす	1991 ル・マン24時間 総合優勝 日本車として初		2010s 独立路線での再建 自前の技術で戦う	2021 アラバマ工場 稼働 ⌚
● 技術 作ったもの		1931 マツダ号DA型 三輪トラック			1961 ロータリーの技術提携 1967 コスモスポーツ 世界初の量産2ローター	1978 サバンナRX-7	1989 ロードスター 世界一多く作られた小型オープン	1991 787Bのロータリー ル・マンを制した心臓	2003 RX-8	2012 SKYACTIVとCX-5 魂動デザインも全車へ 2019 MX-30	2023 ロータリーが復活 発電機として ⌚

 いちばん大きな賭け

ロータリーエンジン。各国のメーカーが手を引く中で量産までもっていき、ル・マンの総合優勝まで届かせました。同時に、燃費の弱点で会社を危機に追い込んだのもこの技術です。

 ここだけ押さえる

危機のレーンが何度も動いているのに、技術のレーンは一度も止まっていません。規模で勝てないぶん、技術で存在理由を作ってきた会社です。

 影の部分も見る

1990年代に販売店を5系列に増やした戦略は失敗し、外資の傘下に入りました。規模の小ささは、いまま電動化投資の重さとして残っています。